

# 博物館・歴史資料館だより

## 藤橋歴史民俗資料館

### ご案内

緑に囲まれた藤橋城の西隣りに、かやぶき屋根の民家が五棟建ち並び、懐かしい昔の景観をうかがうことができ、かやぶきの民家はこの地域の旧家を移築・復元した家屋で、江戸中期から明治初頭に建造された妻入り住宅です。



民家を移築復元された民俗資料館

館内には、藤橋地区で実際に使われた生活用品、農耕用具、林業用具が棟ごとにテーマを決め、見やすく分かりやすく展示されています。おもな展示資料を紹介します。

① **林業資料** 木材伐採に使われた各種のノコギリ・ヨキ類や伐採方法の説明パネル、とくに桁の板を挽く過程は先人の業を学べます。

② **養蚕資料** 新旧の蚕(カイコ)の飼いや方解説パネル・繭標本・蚕棚・桑籠などを展示。蚕は「お蚕さま」と大切に扱われ呼ばれていたのです。

③ **紙漉資料** 紙の原料を蒸す大きな釜場が土間にしつらえられ、紙漉き部屋もあり、紙漉産業は揖斐谷山村の重要産業であったことの証しでしょう。紙漉ぎに使う道具が展示され屋外には紙の原料であるコウゾ、ミツマタなどが植えられています。

④ **繊維資料** 木綿が栽培されるまでは庶民の着物の原料は麻が主で、不足分は山野に自生するイラクサ・カラムシの繊維を補っていたようです。麻・イラクサ・カラムシの繊維標本が展示されています。とくに寝具などは今日のような暖かく柔らかな布団ではなく藁を敷いて寝ていた資料が展示されています。

⑤ **食料資料** 日本人の主食は白い米のご飯と思いますが、それは近年のことでお米を補う大切な食材としてムギ・ヒエ・モチビエ・キビなどを加



民家で昔の暮らしを想定した資料館内部

え食べてきました。これらの食材をどのようにして食べたか、展示資料があります。屋外にはヒエ・モチビエなどが栽培されています。



米にヒエ・キビなどを加えた主食資料

⑥ **炭焼資料** 木炭生産に使われた道具が展示されています。炭の原料を準備する各種のナタ・カマが展示され炭窯を築くジョリン、鍬。各種の藁縄や炭を背負って運ぶ各種のセタが展示されています。



炭焼に関わる資料

⑦ **降雪資料** 降雪量が多い山村のくらしであり、降雪対策の道具などを見ることが出来ます。各種木製の雪かき道具、藁製の雪グツ、各種のミノが展示されています。



いろいろなミノや雪グツの展示

このように、実際に使われた道具や生産物を見ることが出来ます。道具の大半は自然素材を活かし、無駄のない形態を求め、手と頭を駆使した先人の心境が伝わってきます。ぜひ一度、観覧にお出かけください。

・ **入館料** 大人 五〇〇円  
子ども 二五〇円

※藤橋城と共通

- ・ **開館期間** 四月一日〜十一月三十日
- ・ **開館時間** 十時〜十六時
- ・ **休館日** 月・火曜日
- ・ **問い合わせ** 52-2611
- 52-2111

## 揖斐川町の祭りと踊り

### 調査事業講演会 開催

■ **日時** 11月3日(木・祝)

午前9時30分から

■ **場所** 谷汲文化会館 3階大会議室

■ **講師** 京都産業大学法学部教授

所 功氏(揖斐川町小島在住)

■ **演題** 「マツリ文化の再発見」